

踏まれ踏まれても生き返る

NO.30 2025.6.10

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。ご希望の方はメールでお申込みください。無料です。

編集：発行 木村松夫
090-8646-9757

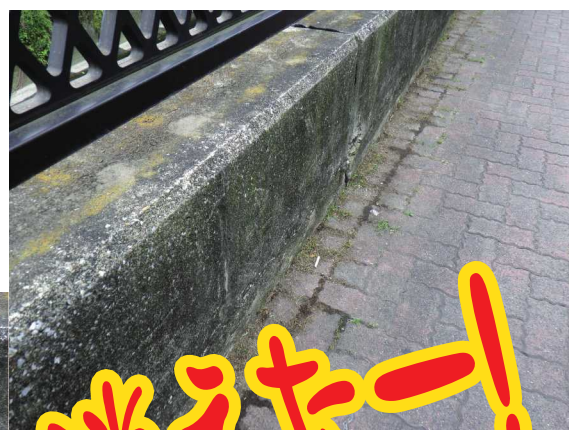
matsuokimura@gmail.com
com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

「この葉っぱ なあに」

で生長を楽しみにしていた

観察ポイントの草が



人間って「自分のコントロール」を外れた存在を許さない生き物か？

展葉する姿から生長して本葉を伸ばし、果たしてどんな花を咲かせるのかを楽しみに観察していたポイントでしたが、きれいさっぱり草刈りされていました。人が歩くような場所でもなし、車が走る上で危険な場所でもなし、だから、野草が生き生きと育っていたのですが、その自然の営みを人が生きていくのと同じように大切にしていこうと思う人はいないのでしょうか。栽培された植物を管理下で楽しむことはあっても、勝手に生えてくる雑草の存在は許せなく、忌み嫌い敵視している「完璧な草刈り」でした。

雑草嫌いのご近所の方が善意でおやりになっているようで、刈り残しもあり。少し離れた幅50cmのわずかばかり残された場所では、数種類の植物が生き残っていました。

同居しているハキダメギクは満開でしたが、No26で推測



した葉（右の赤枠内）は明らかに異なることが分かりました。幅広の葉から細い葉の茎が伸びてきていて、その先端に小さな花の蕾ができていました。もしかしたら、昨春秋に初めて観察したアレチハナガサかもしれません。



その植物が希少種でなくても「立派な野草」でなくても、まず、生きていることを認めること、それが「自然を守る」道です。

オリンピック・トレセンロードの見事なタケニグサ これは花か蕾か？

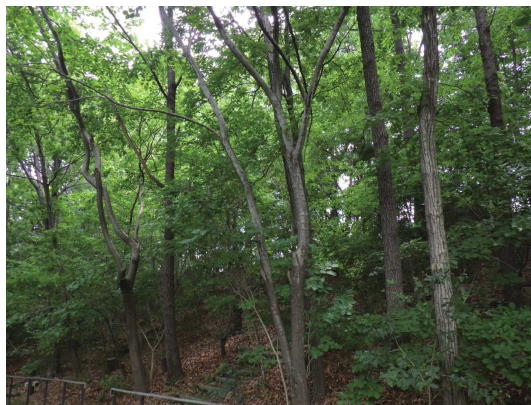
No27でお伝えした北区西が丘のオリンピック選手訓練施設前のトレセンロードは南側から業者による草刈りが始まりましたが、北側のタケニグサはまだ生き残って花を咲かせました。白い筒状がたくさんぶら下がっているのが見事です。大型なので、これが青とか赤の極色彩だったら気持ち悪いでしょうね。白だから、素直に観られるのです。

それで、この筒状のものは花には違いないのですが、蕾なのか開花状態なのか？ 実は、開花した姿は右の写真の右下のものじゃもじゃがそれ。これが果実

になると竹の葉に似てくるのでタケニグサと言われるらしいのですが、そこまで見届けるのと草刈りの進行とどちらが早いでしょうか？



北区赤羽自然観察公園を覗いてみました あまり感動がありませんでした



していた植物を植栽し、長期的に自然の回復を図る」公園として整備されました。豊富な湧水による水辺やそこにやって来る野鳥など、都立赤塚公園とは違った特色があります。

もう30年以上も前になるでしょうか。整備に当たっては、都立赤塚公園で採集した**コナラ**のドングリを発芽させて苗木を作りそれを植林して林をつくったり（左上の写真）して、その当時は赤塚公園で活動するわたしたちも大いに協力したものです。しかし「連携」するまでには至りませんでした。

久しぶりにきちんと観察してきましたが、**ホソムギ**（右上）と思われる種を初めて見つけたのと、**ナワシロイチゴ**（右下）がきれいに咲いていたのを観察しましたが、感動はありませんでした。正直言って、まちなかのトレセンロード沿道のほうが面白いのです。これはどういうことなのか？ よ〜く考えてみる必要があります。

北区西が丘の北側、赤羽台団地の南側に立地する「北区自然観察園」は戦中は陸軍用地で、戦後は米軍が接收、その後、自衛隊が使用していた土地で、もともとあまり開発されてこなかったエリアですが、本格的な民用地に当たって「この地域に本来生息する植物もしくは生息

